



# なんよう

No.97  
2012.11.1

## 平成24年度 懇親会大いに盛り上がる

楠葉同窓会の平成24年度懇親会は、8月25日に佐賀市の「グランデはがくれ」で、概ね100名が参加し開催されました。来賓として佛淵孝夫学長、佐賀大学同窓会、各学部同窓会の代表にご出席賜り、来賓を代表された佛淵学長からは佐賀大学を取り巻く現状等のお話を頂くことができました。

笠原幸雄懇親会実行委員長の挨拶、佐賀大学同窓会の宮島豊秀会長の乾杯でスタートしました会は、実行委員の皆さんの温かい気配りの進行の中、和やかに進みました。恒例のビンゴゲームや本年度の特別企画のマジックショーと楽し

いアトラクションの後、校歌斉唱でクライマックスを迎えました。参加者一同、青春の思い出や近況報告に話が弾み、時の経つのを忘れ楽しいひと時を過ごすことができましたようです。

今回の懇親会は59年入学の実行委員の方により準備を進めていただきました。笠原実行委員長をはじめ実行委員の皆さんのご苦勞も多かったと思いますが、幅広い年代の同窓生が多数参加し母校の思い出を語り合う有意義な時間を作って下さったことに書面を借り厚く御礼申し上げます。

山村 隆介 (56入・経)







## 新学部長あいさつ

経済学部長 平地 一郎

同窓会の皆さん、こんにちは。

本年4月に経済学部長に就任して以来、半年が過ぎましたが、激務に悲鳴をあげそうな状態です。ただ、その忙しさは、教職員50人に満たない経済学部であっても、いかに奥の深い教育活動や研究・社会活動が展開されているかを示すものと痛感もしています。

本学部は、平成25年度から、経済学科、経営学科、経済法学科という新しい構成をとります。この改組が8月17日の大学設置審議会で正式に了承されるまで、いろいろと難航しました。特に6月初旬に出された文科省「大学改革実行プラン」は、従来の大学の姿を大きく変える提起だったので、多くの大学が戸惑ったようです。経済学部の改組計画も、そういう中での作業だったため、文科省に対する丁寧な説明が求められました。何度も何度もやりとりをしました。

そうした努力の甲斐があって、改組は実現したのですが、振り返ってみると、何か目新しいことを説明してきたわけではありません。むしろ、本学部が半世紀近くに渡って実践し蓄積してきた教育活動や地域研究・国際交流などを、3学科制の下での新しいカリキュラムの中に整理して具体化して伸び伸びと展開したいという、私たちの願いを率直に述べてきただけのように思います。

新しい3学科制の下で、昔の懐かしい自由選択制から新しい体系的カリキュラムへと様変わりします。しかし、教育の中で学生が成長するという基本は昔も今も変わりません。教育の方法は変わってもその本質は同じです。時代に流されない・社会と向き合う、そういう経済学部で有り続けたいと思います。

もうすぐ経済学部は50周年を迎えます。それに向けて、もう一段飛躍します。

2013年  
10月

## 佐賀大学美術館オープン

このたび佐賀大学は、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業として、国立の総合大学では全国初となる大学美術館を設置することとなりました。平成25年10月1日の開館を予定しています。また、現在、佐賀県の都市計画に沿った正門前道路の拡幅工事が行われており、その終了時に、佐賀大学の正門を整備し、美術館と併せて正門一帯を新しい大学のシンボルとしていきたいと考えています。

佐賀大学美術館では、佐賀大学の所蔵する歴史資料や絵画等を展示・公開するとともに、現役の学生や教員の作品展等を開催する予定です。また、芸術作品の展示に限らず、ひろく一般の方にも利用していただけるよう様々なワークショップや公開講座などのイベントを計画しております。

設置場所は、佐賀大学本庄キャンパス構内正門側を予定しており、延床面積は1,628㎡、構

造は鉄骨造2階建てで、主要施設に展示室、スタジオ、収蔵庫等を有し、屋根のつながった別棟にはカフェや守衛所が入る予定です。

現在、佐賀大学では佐賀大学美術館設置事業への募金をお願いしています。

佐賀大学美術館は、寄附金による建設を予定しており、美術館設置事業募金は、美術館設置およびその後の運営資金として有効活用させていただきます。

皆様のご協力ご支援の程をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先

佐賀大学総務部総務課 美術館設置事業窓口

☎0952-28-8333



## 「真鍋名誉教授を偲ぶ会」開催

去る9月15日(土)、佐賀大学内の「菱の実会館」において、「真鍋名誉教授を偲ぶ会」を開催しました。

先生は、文理学部時代には刑法総論・刑法各論を、文理改組後には教養部において憲法を講義され、その人柄により多くの学生から慕われました。

そのことを裏付けるように、台風16号が近づいているという状況にも拘らず、沖縄県や神奈川県からも参加された方がおり、総勢43名という大人数で、さながら、「佐大同窓会」といった感じでした。

「菱の実会館」の多目的ホールで行なった1部の「先生を語る会」では、先生の座右の銘、ルイ・アラゴンの「教えるとは共に希望を語ること、学ぶとは真実を胸に刻むこと」を皆思い返し、先生の思い出を語り合いました。

不知火寮の「電水料問題」に端を発した佐大闘争により、寮の委員をしていたというだけで退学処分となったK君の話——自分を入れたゼミを学内で行なうことはできないので、先生は神野公園等で行なって頂いた等——に皆くぎ付けになりました。



また、先生の奥さんがお産のために里帰りされている間に、欠食児童同然の学生達が居つき、冷蔵庫や米びつを空っぽにし風呂まで入った話、あげくの果てには当の学生達は二日酔いで寝ているのに、先生は講義のため大学に行かれた話、ドイツ語に自信のない学生達に徹夜で指導して頂いた話等々で盛り上がりました。

2部は生協の「かささぎホール」に移り、料理や佐大農学部で作った日本酒を頂きながら、思い出話が続きました。

中には、かくし芸を披露してくれた人もいて、アッという間の泣き笑いの5時間でした。

参加者は、あれから半世紀近く経ち、かつての美青年も白髪や禿頭姿が目立ちましたが、先生の教えから影響を受けた物の考え方や価値観については、ずっと1本のローテ・ファーデンとして通してきたようで、その生き様は皆誇れるような顔に見えました。

人を思うと書く「偲ぶ会」、先生に再び会わせて頂いた参加者全員が、学生に戻ったように見えた1日でした。 池松 美澄 (39入・法)

## 歌は流れる その62

**除幕式** 「こりゃいったい何が起きたんだ」深い眠りの園田卯吉は、出来上ったばかりの歌碑の前で、斉唱する「南に遠く」の歌声に、目覚め瞳若したのだろう。平成12年5月佳日の除幕式。大分市大道町に住む卯吉の甥太一と東京の次弟征次、双方の家族が出席した。

**大伽藍** 歌碑はかつてあったプールの西端、ブロンズ立像「遙かなり十五畷」の前に建つ。そして学道錬磨の大伽藍・不知火寮と対座する。辺りは松や楠の巨木が立ち並び松籟の音落とす。青春が躍動していた佐高時代の原風景はとうに失せた。十五畷白線群れし夢の跡だ。

**贈られたメッセージ** この日、菊葉同窓会の井田圓之会長にメッセージが届けられた。贈ったのは大分県知事の平松守彦。平松の姉が卯吉の兄に嫁ぐ。そこに肉親の情感が漂う。

本日は旧制佐賀高校の創立八十周年をお祝い申し上げますとともに、寮歌「南に遠く」の歌碑建立を心からお喜び申し上げます。「南に遠く」の作詞者・園田卯吉は私の姉婿・俊吉の弟であり、佐高在学中は、各高校の寮歌や東京六大学の応援歌等に強い興味を持たれ、大分に帰省するたびに、小学生だった私ども兄弟に、当時珍しかつ

た蓄音器で聴かせてくれたことが印象深く残っています。卯吉兄が在学中に作詞されたこの寮歌が今、旧佐高を代表する記念歌となり、全国寮歌の中でも後世に残る名作と謳われていますことは、私にとっても大いなる誇りです。

この因縁から寮歌「南に遠く」は、私が旧制五高時代から愛唱してきました寮歌「武夫原頭」と並んで、今でも私の青春時代を偲ぶよすがとして感銘深く口ずさんでいます。

卯吉兄は旧制佐高から旧制東京帝大に進まれましたが、不幸にして病いに倒れ別府市の鳥潟病院で療養中に、22歳の若い生涯を閉じられました。臨終の言葉は「また夢を見よう」であったと姉から聞かされました。

このたび「南に遠く」の歌碑が建立される機会に関係者一同で、「健児つどえるこの野辺に」旧制佐高健児の志を顧み、これまでの先輩たちの足跡を誇りをもって振り返っていただきたいと思ひます。そして旧制佐賀高校の輝やかなしい栄光の歴史と伝統を、二十一世紀への新しい発展に引き継いでいただきますようお願い申し上げます。平松守彦  
平成12年5月17日 大谷 希幸 (30卒・法)





## ペンネームは「大賀経佐」

高崎 康史 (48入 経済)

5年ほど前のことです。東海道新幹線をテーマに書いたものを、出版社の原稿募集に応募したところ、奇跡的に入選。1万3千部が出版されるという僥倖に恵まれました。拙著は全国の

書店に並び、「週刊ポスト」誌上で推薦図書として取り上げられるなど、(初作としては)まずまずの評価も得ました。

これが切っ掛けで、私が住む千葉県の朝日新聞の販売会社から、同社発行のミニコミ紙への連載執筆を依頼され、以来、本業である会社員を兼ねながら素人執

筆家(雑学系ノンフィクション)を続けています。嬉しいことに連載記事は好評らしく、読者からの手紙も多く寄せられています。連載終了後、これまでの原稿をまとめて、再び一冊の本にして出版する予定です。

ところで、そのミニコミ紙の連載では、本名ではなく「大賀経佐」というペンネームを使っています。「おおが つねすけ」と読みます。お気付きのように「佐・賀・大・経」の文字を組み替えたものです。

もし将来、拙著を読んでもくれる人が増え、この少々奇妙な名前に関心を持ってくれた場合、その副次効果として佐賀大学の名が(特に知名度の低い首都圏で)広がれば有り難い——ペンネームに母校の名を拝借したのは、このような思いからです。

執筆家として実力もなく無名の私では、効果の程は期待出来ないかもしれませんが、これが若干でも母校のお役に立てばと思考する次第です。早、還暦まで指呼の間。リタイヤ後の仕事としても、一冊でも多くの著作物を世に出したいと思っています。

## 事務局日誌 (◇印は楠葉同窓会)

- H24. 4. 1 ◇会報「なんようNo.96」発行
- 3 佐賀大学24年度入学式(経済学部301名入学)
- 12 佐大同窓会「第1回代表役員会」
- 13◇楠葉同窓会「会計監査」
- 19 佐大同窓会「春期定例役員会」
- 23◇楠葉同窓会「役員会」
- 26 「佐賀大学と佐大同窓会との意見交換会」
- 5. 9 佐大同窓会会報「楠の葉No.17」編集会議
- 10 佐大同窓会「第2回代表役員会」
- 19 農学部同窓会総会・懇親会
- 23◇楠葉同窓会総務担当者会議
- 24◇楠葉同窓会会計担当者会議
- 26◇楠葉同窓会「平成24年度総会」ワシントンホテルプラザ「銀座八丁」
- 6. 7 佐大同窓会「第3回学習会・役員OBとの懇親会」；佐大菱の実会館
- 28◇楠葉同窓会「役員会」
- 7. 1 佐大同窓会会報「楠の葉No.17」発行
- 3◇楠葉同窓会懇親会打ち合わせ会
- 9 佐大同窓会「会務の見直し会議」
- 11◇楠葉同窓会会計担当者会議
- 12 佐大同窓会「第3回代表役員会」
- 18◇楠葉同窓会「役員会」
- 22 佐賀大学元学長 佐古宣道氏叙勲受章祝賀会
- 8. 8 佐賀大学 オープンキャンパス
- 9◇楠葉同窓会「役員会」
- 17◇楠葉同窓会組織と実行委員会との打ち

- 合わせ
- 25◇楠葉同窓会「平成24年度 懇親会」；グランデはがくれ
- 29◇楠葉同窓会会報「なんようNo.97」編集会議
- 9. 5 佐大同窓会 キャリアデザイン講座打ち合わせ会
- 13 佐大同窓会「第4回代表役員会」
- 15 「故 真鍋毅先生を偲ぶ会」；佐大菱の実会館
- 19 佐大同窓会「会務の見直し会議」
- 26◇楠葉同窓会「役員会」
- 10. 3 単位提供講座「キャリアデザイン」開講ガイダンス
- 3 佐大同窓会「会務の見直し委員会」
- 10 単位提供講座キャリアデザイン／講師 村上直巳氏(経済学部卒)
- 10 佐大同窓会「第5回代表役員会」
- 17 単位提供講座キャリアデザイン／講師 堀田潤氏(経済学部卒)
- 18 佐大同窓会「秋期定例役員会」
- 24 単位提供講座キャリアデザイン／在学生(就職内定者)
- 27 筑後支部総会・懇親会／ランヴィエール勝島
- 27 諫早支部総会・懇親会／L&Lホテルセンリュウ
- 31 単位提供講座キャリアデザイン／講師 小石克氏(教育学部卒)

### 編集後記

本紙にも記載されている「真鍋先生を偲ぶ会」後半の懇親会では、A氏が蚤の曲芸を披露された。ただし、実際に蚤を扱うのではなく、手の平の蚤に曲芸させているつもりで、それを自分の身振りや目で追う仕草で観客を沸かせるものである。

ところが、それが実に堂に入ったもので、観客はA氏の視線が自分に来ると途端にむずがゆくなり、ましてや女性の胸元にでも来ると、きゃーっと大騒ぎで、おかげで会場は大爆笑に包まれた。

A氏がこれを始められたのはご自分の仕事に笑いを持ち込むためだったそうだが、山高帽に燕尾服を着込み、目の動きを強調するため目の上と下にもマジックのアイラインを入れ、その表情は真剣そのもので、だから観客はむず痒くなるのである。

一口に余技という。真剣勝負の身の処し方の中で、ふっと流れを変える役目をするもの。だが、その変え方も真剣だから観客は引き込まれてしまう。余技にも真剣勝負の血が流れて、何事も真面目にやらないと人を打たないと教えられる。他人、みな師である。

文責：釘本 勤 (40入 文理・法)

発行 佐賀大学楠葉同窓会  
佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700  
E-Mail: dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 石丸 新 (40入・法)  
編集 松尾和俊 (58入・経)  
代表者  
郵便振替 [01760-9-25635]